

令和7年度 第5回鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 令和8年1月23日(金) 13:30 ~ 15:00
会議方法 対面会議(オンライン併用(Google Meet))
会 場 事務局棟3階 第1会議室
出席者 (学外) 占部, 小林, 中島, 平井, 船越, 松本 の各委員
(学内) 原田, 景山, 坂口, 恒川, 三木, 結城, 熊埜御堂, 武中の各委員
内田監事, 足立監事
陪席者 岸本副学長, 後藤副学長, 海藤副学長, 香川副学長, 安延副学長,
深田副学長
永島医学部長, 岩井工学部長, 明石農学部長

議事要旨の承認

前回(令和7年11月26日開催)の議事要旨を承認した。

審 議

1. 鳥取大学附属動物病院及び鳥取市立動物愛護センター整備計画について

資料1に基づき, 鳥取大学附属動物病院及び鳥取市立動物愛護センターを併設する整備計画について説明があり, 審議の結果承認した。

— 委員からの主な発言 —

◇動物と共生する生活の豊かさや, 本学が発信する普遍的価値(倫理観を含む)をコンセプトに盛り込むべきとの意見があった。

◇欧米の事例も踏まえ, 安易な飼育が外来種問題や生態系破壊につながるよう, 飼い主の「リテラシー教育」も含めた両輪の活動が重要との意見があった。

報 告

1. 令和8年度運営費交付金概算要求

資料2に基づき, 令和8年度運営費交付金予定額の概要について報告があった。

2. 令和7年度国の補正予算対象予定事業

資料3に基づき, 令和7年度国の補正予算対象予定事業について報告があった。

討 議

1. 研究力・イノベーション創出を加速させる「URA と技術職員」の活躍とスキルセット

資料4に基づき、研究成果の社会実装に向けURAと技術職員が重要な役割を担っているが、人材確保を課題としており、解決策としてキャリアパスの確立や産官学の人材循環、組織マネジメント強化による研究力の最大化を目指す将来構想について説明があり、説明後、各委員との意見交換が行われた。

— 委員からの主な発言 —

- ◇研究者（論文数）や医師（症例数）と異なり、URAは「実際に機能するかどうか」の評価指標が確立されていないため、最初から常勤雇用（パーマネント）とすることには採用側のリスクも大きいとの意見があった。

- ◇評価が難しいからこそ、まずは任期付きやクロスアポイントメント、特任教授等の肩書きを活用し、適性を見極めながら段階的に進める手法が現実的であるとの意見があった。

- ◇医学部の成功事例（チームによる機能化）を全学に広げられるかとの発言があり、医学部において中心的役割を担っていた方を中心に取り組んでいる旨説明があった。

- ◇博士課程の学生が、将来のキャリアとしてURAを志望できるようなロールモデルと処遇（パーマネント化）の提示が必要ではないかとの発言があり、将来的な構想に取り入れて進めている旨説明があった。

- ◇企業との人材交流は、現在のAI・知財人材の争奪戦の中ではハードルが高いが、農学・獣医学分野は独自のターゲットとなり得るとの意見があった。

- ◇外部資金の間接経費による雇用確保や、能力審査を経たパーマネント転換など、若者がチャレンジできる環境整備を検討していく必要があるとの意見があった。

- ◇企業の早期退職者や65歳以上のシニア層は非常に有能であり、リカレント教育（学び直し）を通じて、80歳まで現役で活躍できるURAとして育成する視点も重要との意見があった。

そ の 他

資料5に基づき、次回開催日程について説明があった。